

神戸工場 製粉立体自動倉庫の更新 ～物流機能の改善、効率化～

昭和産業株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長執行役員 塚越英行）は、物流機能の改善、効率化に向けて、神戸工場（兵庫県神戸市）内の製粉立体自動倉庫を更新し、新設することいたしましたのでお知らせします。設備投資金額は35億円、2026年2月の完成、稼働開始を予定しています。

昭和産業グループは90周年を迎える2025年度に向けた長期ビジョン「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向けて、現在「中期経営計画 23-25」に取り組んでおり、基本戦略の一つとして「基盤事業の強化」を掲げております。

現在物流業界では労働力不足が顕在化しており、さらにドライバーの労働時間に上限が課せられるなどの「2024年問題」、またモーダルシフト、輸送拠点の集約などCO₂排出量を削減していく「グリーン物流」への対応が求められております。これらの課題にも対応すべく、新しい立体自動倉庫では製造から保管、ピッキング、出荷までをコンピューターにより一元管理を行い、現在は人手を要している作業を自動化・省人化し、積込み時間・待機時間短縮を図り、物流機能の改善、効率化を図ります。

当社は「ホワイト物流」推進運動に賛同し、自主行動宣言では「荷主側の施設面の改善」として倉庫のレイアウト変更等を掲げております。この度の更新はその施策の一つとなります。

今後も持続可能な物流の実現に向け、環境負荷低減、物流最適化の推進に努めてまいります。

【新倉庫の概要】

所在地	昭和産業株式会社 神戸工場内 (神戸市東灘区御影浜町5番地)
延床面積	3,900m ² (倉庫、出荷場等)
投資総額	35億円
保管品目	小麦粉製品 (パレット積み紙袋品)
立体自動倉庫 収容力	190千袋 (4,750トン)
稼働	2026年2月

【完成予想図】



<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 企画部コーポレート・コミュニケーション室
TEL：03-3257-2042 担当：赤松・塩谷